

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		よこはまりバーサイド泉Ⅲひまわり				公表日		2025年 3月 25日	
		チェック項目	(はい)	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5		・必要に応じてプラットホームの台数を増やす等、又、マットを敷く等で支援内容に沿った対応ができています。	・引き続き安心、安全な環境づくりを心掛けていく。			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	5		・人員配置基準を守り、人員を配置することができています。				
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4	1		・引き続き分かりやすく過ごしやすい環境となるよう必要に応じた対応を心掛けていく。 ・時代に合わせipadの導入や、情報の伝達ツールとしてインターネット配信等の利用があると尚良い。			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4	1	・毎日の清掃や消毒のほか、常時空気清浄機を稼働し、冬場は加湿器を設置し清潔な環境を保っている。				
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		・気持ちの切り替えなどの個別時には、必要に応じて別室対応をしている。				
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5		・PDCAサイクルを心がけ、定期的な現状把握、課題の抽出や業務の見直しを行っている。				
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	1	・活動予定時にアンケート等で意見を集める配慮をしている。	・HP上で評価、公表を行い保護者のご意見を頂き業務改善につなげていく。			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		・毎日の朝の会や帰りの会のほか、職員ミーティングで意見交換や検討、改善につなげている。				
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	3	・第三者機関による評価は行っていないが、定期的な社内点検を実施している。	・今後第三者機関による評価の実施について検討していきたい。			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		・法人研修は定期的に行っている。 ・外部研修にも参加し、支援の質を高めている。	・引き続き研修に参加しやすい環境をつくり、職員の資質向上に努めていく。			
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4	1		・HP上にて公表を行う。			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5			・引き続き包括的な支援と具体的なプログラム作成につとめていく。			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5						
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		・朝の会や帰りの会、職員ミーティングで情報交換共有し、適切な支援を確認し実施している。				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5		・外部機関で実施された検査結果を把握し、個別支援計画の作成に活かしている。				
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5			・引き続き5領域に関する具体的な支援内容を設定していく。			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5		・月、週単位で立案し、チームで共有している。また、イベントは担当を設け企画運営している。	・各活動内容について事前にプログラムの方向性やねらい、関わり方を明確にして共有し、より具体的な支援に基づく活動にしている。			

（援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5	・季節ごとのイベントや実施する活動は内容を変化させ、子供たちの成長発達を意識し工夫している。 ・毎月、次月の活動決めを行い多角的な視点から様々な意見を出している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5	・一人ひとりの成長発達に応じ、個々の課題と集団適応、社会性の課題を支援計画に入れている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5		
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	・支援終了後もしくは翌日の朝の会で支援の振り返りをし、多職種の職員間で共有している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5	・6か月毎に見直しを行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	5	・成功体験を積み自己肯定感を高める、他者と関わる、表現する喜びを体験する場面を設け、主体的に参画できる活動を組んでいる。	・地域交流の機会については検討していく。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5		
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5	・児童発達支援管理責任者やこどもの状況をよく理解した担当職員が出席している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	1	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5	・学校や保護者を通じて情報を得ている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	0	5	・ご家族からの情報として、就学前の事業所時代の様子を伺うことはあるが、直接的に情報交換する機会には特にない。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5	・必要に応じて協力できる体制を組んでいる。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	1	4	・必要に応じて、重症心身障害児に関する助言や研修に参加していく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	1	4	・様々な機関や施設とのつながりを作っていくよう努めていく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	2	2	・管理者及び主に地域活動に中心的に活動している者が参加している。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5	・日々の送迎時や連絡帳を通じてこどもの状況や課題について話す機会を設けている。必要に応じて相談の時間も設けている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	3	・ご家族向けに必要な情報発信を行うと共に、必要場合は事業所内での研修等も検討していく。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4	1	・利用契約時及び変更があった際に説明している。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5	・こどもと保護者の意向を計画書に記載し、ニーズを踏まえた支援計画書を作成している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5	・支援計画内容を説明する面談を設け、同意を得ている。	

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		・6か月毎に面談を行っているが、必要に応じて随時相談に応じられる環境を設定している。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	3	2	・毎年1回、交流会を開催し、またフェスタなどで保護者同士が顔を合わせられる場となっている。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5		・連絡帳を通じてお便りの配布や、メール配信『マメール』のほかHPにて情報を発信している。	・情報の配信が正しく認識していただけるよう、まだまだ改善していく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		・個人情報に記載された書類などは、鍵付きキャビネットに保管している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5		・目線や表情、ジェスチャーや行動から読み取り意思表示を職員が理解し相互の伝達方法を工夫している。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	1	・フェスタでは地域の方が参加できるプログラムを企画している。またボランティアの受け入れもしている。	・事業所側からも地域活動に参加できる機会を作れるよう検討していく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4	1	・事故、災害、感染症などのマニュアルを策定し訓練を行っている。	・ご家族にマニュアルを提示し、説明の機会を作っていく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5		・定期的に避難訓練、経路確認を行っている。	・今後、保護者との連絡訓練も進めていく。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5		・利用開始の際、健康調査票を保護者に記入して頂き確認している。また緊急時の対応として服薬等の情報は定期的に確認している。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5		・指示書に基づきアレルギーの原因とされる食材の使用は見合わせている。保護者の同意を得た上で使用することもある。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4	1		・引き続き安全計画を適切に活用していく。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4	1		・安全計画に基づき、感染症などについての注意喚起や事業所の取り組みについて、保護者への周知に努めていく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		・危険な事例があった場合は報告書に記載し、対策を組み職員間で共有している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		・内部や外部研修に参加し、日頃から意思決定支援による権利擁護を意識し、振り返りを行っている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5		・身体拘束適正化委員会を設置し身体拘束の必要性などを検討する場を設けている。	